

越冬前茎数は平年よりも少なくなっています。ほ場の排水対策を実施して、茎数を維持できるように努めてください。分施肥栽培では、消雪を確認したら速やかに追肥を行いましょう。

1 排水対策

これから茎と根の伸長期となり、排水の悪いほ場では湿害により生育量が不足し、収量の減少につながります。しっかりと排水対策を行いましょう。

消雪後は直ちに排水溝の連結を手直しして排水を促し、収穫期まで雨水等が停滞しないようにしましょう。



枕地や排水口周辺の排水溝をしっかりと連結する。

表 越冬前生育調査結果(12/11)

	草丈 (cm)	苗立数 (本/m ²)	茎数 (本/m ²)
R7年産	38.9	159	516
平年	27.0	231	734

福光管内 3ほ場

消雪直後のほ場

溝に水が溜まると根張りが悪くなる



排水口を深く掘り下げ、排水口へつなげる。

2 消雪後追肥（分施肥体系）

基肥に「基肥555」を使用している場合は、茎数や穂数を確保するため、消雪後速やかに追肥を施用しましょう。

肥料効率を高めるため、排水を良くし、ほ場に停滞水がない状況で施用しましょう。

施用時期	茎数	硫安の施用量
ほ場全体の消雪を確認後、直ちに	少～並	20kg/10a
	多*	15kg/10a

*茎数多：麦が繁茂し、土が見えないようなほ場（m²当たり1,200本以上）

※基肥に**Jコート大麦48号**を使用している場合は、原則追肥の必要はありません。